

## 日本助産学会ニュースレター

## 巻頭言

## 求められる助産師の自律—地域との連携のもとで—

Midwives Must be Autonomous: Connections to the Community

第21回日本助産学会 学術集会 会長 宮崎文子  
(大分県立看護科学大学)

急速な少子化が進む中で、安全・安楽なお産を求める国民の声はますます高まっており、その対応が強く求められています。一方では、産婦人科医師の不足による不十分な産科医療体制が全国各地で社会問題となっております。

安全で満足のいくお産の実現に向けての周産期医療体制の早急な整備が必要とされているにも拘らず、大分県内でも、既に5つの中核病院の産科診療が閉鎖されました。このような中で、ある病院の産科診療の閉鎖が明らかにされたとき、看護部長は、助産師の能力を発揮する絶好の機会と捉え、「院内助産院（仮称）」の開設に挑戦することを助産師たちに提案しましたが、助産師たちは、今まで自分達はそのような働きをしてこなかったのだからできないと断りました。その結果、助産師達の身の振り方としては、同じ病院で看護師として働くか、他の病院の産科に移動するかの二者択一の選択をせざるをえない状況となってしまいました。このような状況は大分に限られたことではなく、全国の100以上の病院において起こっているのではないかと推測されます。ちなみに、日本看護協会助産師職能委員会の全国調査（2005年12月）でも、このような状況に至ったときの対応として「開業する」と回答したものは5.6%に過ぎませんでした。

助産師が保健師助産師看護師法第3条の専門職としての基本姿勢を社会に対して明示し、時代のニーズ、社会のニーズに対応した活躍をしていくためには、助産師自身の自律が不可欠だと考え、第21回の日本助産学会学術集会のメインテーマを「求められる助産師の自律—地域との連携のもとで—」とさせていただきました。

自律とは、「他からの支配・制約を受けずに自分自身の規範に従って行動すること」（大辞林）、また「それ自体のうちに独立の目的・意義・価値を持つこと」（広辞苑）とあります。今こそ、安全・安楽なお産の実現に向けて、強固な助産師の自律が求められています。

遡れば、助産師の働き方が医師主導になって60年が経ちます。医師と助産師、その他の関連職種との連携のもとでの周産期医療体制の構築、すなわち、助産師教育のあり方、病院・診療所の助産師の働き方、病院と開業助産所のコラボレーション、助産技術の向上と保健指導の点数化、産後ケア事業の推進、助産師の経営感覚等が日本助産学会の喫緊の課題であります。

第21回目を迎える年次学術集会には、助産学分野のさまざまな課題に対処するために、関連分野の研究者、実践家の叡智を結集して、助産師の自律、更なる可能性の探求に努力をしまいたいと思います。多くの方々の演題応募、ご参加をお待ちいたします。

## 委 員 会 報 告

### 第20回 日本助産学会総会報告

庶務担当理事 宮 中 文 子

日時：平成18年3月4日(土) 9:30~10:20

会場：東京ビッグサイト 6階会議棟 メイン会議室

出席：65名

開 会 堀内成子理事長あいさつ

議 事 福井トシ子20回学術集會長が議長となり、プログラムにそって議事が進行された。

#### 《報告事項》

##### ◎理事会および評議員会報告

堀内成子理事長から、通常理事会を6回と書面理事会を2回開催したこと、その活動内容については【総会要綱p.2~4】にそって報告された。

評議員会において【総会要綱p.5】、理事会内容が承認されたことも報告された。

##### ◎平成17年度事業報告

宮中文子庶務担当理事から庶務報告、以降平澤美恵子副理事長から【総会要綱p.6~10】にそって一括報告された。

##### ◎平成17年度収支決算報告

高田昌代会計担当理事から【総会要綱p.13~14】にそって、一般会計、特別会計について報告された。

##### ◎監査報告

浅生慶子理事から、収支決算について監査を執行した結果、適当であった旨報告された。

##### ◎第20回学術集會準備状況

福井トシ子第20回学術集會長より【総会要綱p.11~12】にそって、学術集會準備経過報告がされた。

#### 《審議事項》

##### ◎平成18年度事業計画案

堀内成子理事長より、【総会要綱p.15】にそって次年度の10項目の事業計画が説明された。

- 1) 助産実践・教育の強化
- 2) 助産学に関する研究の振興
- 3) 学会誌・ニュースレターの発行
- 4) 組織強化
- 5) 日本学術会議関係活動

- 6) 国際助産師連盟関係活動および国際助産師の日に関する事業の促進
- 7) 国際援助事業の推進
- 8) 「健やか親子21」推進協議会活動の推進
- 9) 第21回学術集会開催
- 10) その他、理事会が必要と認める事業

以上の項目に、「助産実践・教育の強化」として、助産認証評価支援を行うことが補足された。平成18年度事業計画案は賛成多数で承認された。

#### ◎平成18年度収支予算案

高田昌代会計担当理事から【総会要綱p.18-19】にそって次年度の収支予算案が説明された。平成18年度予算案は賛成多数で承認された。

#### ◎会則改正案

堀内成子理事長から【総会要綱p.16】に基づき、会計年度時期の改正案が提案された。総会が3月であることが前提であれば、会計年度時期を変更して現実と齟齬がないようにしたい旨の説明が補足された。会則改正案は賛成多数で承認された。

#### ◎評議員選出規定改正案

堀内成子理事長から【総会要綱p.16】に基づき、評議員選出規定改正案が提案された。評議員選出規定改正案は賛成多数で承認された。

#### ◎2008年（平成20年）度日本助産学会理事・監事・評議員選挙（第8期）における理事・監事・評議員の任期に関する限定措置についての申し合わせ事項

堀内成子理事長から【総会要綱p.17】に基づき、2008年（平成20年）度日本助産学会理事・監事・評議員選挙（第8期）における理事・監事・評議員の任期に関する限定措置についての申し合わせ事項が提案された。2008年（平成20年）度日本助産学会理事・監事・評議員選挙（第8期）における理事・監事・評議員の任期に関する限定措置についての申し合わせ事項は賛成多数で承認された。

#### ◎次々期（第22回）学術集会会長選出

堀内成子理事長から、評議員会で次々期（第22回）日本助産学会学術集会会長として毛利多恵子氏（毛利助産院）が選出された旨の報告があり、賛成多数で承認された。

#### 《次期学術集会会長あいさつ》

第21回学術集会会長宮崎文子氏（大分県立看護科学大学）から挨拶があり、平成19年3月10日（土）・11日（日）、ピーコンプラザ（別府市）にて開催、メインテーマは「求められる助産師の自律—地域の連携のもとで—」であることが紹介された。

閉会 平澤美恵子副理事長あいさつ

## 日本助産学会 20周年記念式典

日本助産学会20周年記念式典は、3月4日（土）10：20～12：30に東京ビックサイトメイン会場（605～608）において、下記のプログラムにそって盛大に開催された。

あいさつ 堀内成子理事長

講演 「日本助産学会20年のあゆみ」 平澤美恵子副理事長

表彰

島田啓子理事より、20周年記念論文には7編応募があり、査読者による審議の後、理事会で審議した結果、聖路加看護大学博士課程辻恵子氏の「女性に優しい助産ケア：会陰切開の適応を再考する」、聖路加看護大学博士課程太田尚子氏「死産で子どもを亡くした母親達の視点から見たケアニーズ」、金沢大学大学院田淵紀子氏「生後1か月から1年までの乳児の泣きに対する母親の情動作業に関する縦断的研究」の論文が記念論文として採用された経過の報告後、表彰状と賞金が堀内理事長より授与された。

招聘講演

「アメリカの看護助産師の制度と専門職団体の創設と変遷」

“Establishment and the History of ACNM and Nurse-Midwife System in the United States and its Transition”

演者 エール大学名誉教授 ヘレン・バーニー・ウィリアムズ・パースト

座長 近藤潤子理事

「私たちは何者か？」と題して、看護助産師である我々は、看護師であり、助産師であるという、ふたつの異なる専門性に属していることをまず話されました。

そして、アメリカの看護助産師の歴史をひも解き、助産師の定義とその実践の範囲、ACNM (American College of Nurse-Midwives) の果たす役割、資格制度、助産学のプログラムの必要要件について説かれました。また、現在おかれている日米共通の課題である看護の専門職団体と助産の専門職団体とのバランスや、看護と助産との違いが管理過程によるものであることを指摘された。

我々は看護助産師として、実際にふたつの異なる専門職の一員であるということ、マタニティサイクルを通して、女性、子ども、家族に提供する質の高いケアを提供するために、助産の専門性を保つ必要があることが語られた。助産の専門性を保つために、自分たちの資格制度を完全にコントロールしなければならないこと、つまり免許と認定、最後に、教育やカリキュラム、実践のスタンダードを設定することが重要であるとしめくくられた。

**平成19年度 日本助産学会 研究助成公募**

学術振興担当理事 加藤 尚美

応募締切日：平成18年12月22日（金）必着

日本助産学会では、本学会の会則に基づき、助産学に関する研究を推進するために研究費用の一部を助成し、助産学の発展をはかり、わが国の母子保健に寄与することを目的に研究助成を行っております。

平成19年度の研究助成応募は、以下の要領にしたがって手続き下さいますようお願いいたします。

**（応募手続き）****1. 応募資格**

- \*日本助産学会員として3年以上加入している会員であること
- \*共同研究者は会員であること（加入年数は問わない）

**2. 申請書の請求**

日本助産学会ホームページ（<http://square.umin.ac.jp/jam/>）の、研究助成からダウンロードできます。

または、氏名・所属機関（大学・学部等）の名称・送付先を記入の上、郵送料として90円切手を同封して下記宛にご請求ください。（急ぎの場合は速達料270円切手同封のこと）

**3. 応募方法**

日本助産学会の申請書に必要事項を記入し、作成した申請書の正本1部、副本10部、返信用はがき（受付連絡用）を同封し下記にお送りください。返信用はがきには、研究代表者名、郵便番号、あて先住所を記載して下さい。申請書は受け取りを確実にするため簡易書留でお送りください。

申請書は日本助産学会にて受付後、受領はがきを送付しますので、ご確認ください。

**4. 研究課題****1) 委託研究課題**

本学会は「健やか親子21」の推進協力団体として登録しております。推進協議会における課題は、課題1「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」、課題2「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」です。そこで、本事業に関連した研究課題を公募します。詳細は「健やか親子21」のホームページ（<http://rhino/yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/>）をご覧ください。

**2) 学術奨励課題**

助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学術的調査、研究など

**5. 応募締切日：平成18年12月22日（金）必着****6. 助成規模**

委託研究助成 2件以内（上限50万円／1件当たり）  
学術奨励研究助成 2件以内（上限30万円／1件当たり）

**7. 助成者の決定および通知**

助産学会理事会で審議決定、採否は文書で通知します。

**8. 応募に関しての留意点**

申請者は、直接書き込みまたはコンピューター入力してください。手書きの場合は黒ボールペンでわかりやすい字体で丁寧にお書きください。提出された申請書は返却しません。

**9. 問合せ先（申請書の請求先）E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp**

日本助産学会事務局：〒102-0071 千代田区富士見1-8-21 東京都助産婦会館内3階

平成18年度学術奨励研究助成（上限30万）を、1件追加募集します。  
応募要領は平成19年度の公募要領と同じです。ご応募お待ちしております。  
平成18年度学術奨励研究助成の追加募集（採用枠1件）の締め切り：6月30日（金）必着

## 国際委員会報告

国際委員会担当理事 加納尚美  
山本令子

### 1. ICMの動き

#### 1) 第28回ICM大会予告

次回大会は、2008年6月1—6日にスコットランド、グラスゴーで開催されます。大会テーマは、「世界中の女性と新生児に関わる (A Worldwide Commitment to Women and the Newborn)」です。まもなくICMウェブサイトで大大会内容は公開されます。Website: [www.internationalmidwives.org](http://www.internationalmidwives.org)

#### 2) 「助産師の定義」のリニューアル

2005年度ブリスベンで開催された第27回国際助産師連盟にて「助産師の定義」が改正されました。国内で同連盟に加盟している日本助産学会、日本看護協会、日本助産師会の三団体で協議し、下記の翻訳になりましたのでお知らせいたします。原文も併せて記します。

表1 助産師の定義

#### 〈和文〉

助産師とは、その国において正規に認可された助産師教育課程に正規に入学し、助産学の所定の科目を履修したもので、助産業務を行うために登録され、また／あるいは法律に基づく免許を得るために必要な資格を取得したものである。

助産師は、女性の妊娠、出産、産褥の各期を通じて、サポート、ケア及び助言を行い、助産師の責任において出産を円滑に進め、新生児及び乳児のケアを提供するために、女性とパートナーシップを持って活動する。これには、予防的対応、正常出産をより生理的な状態として推進すること、促すこと、母子の合併症の発見、医療あるいはその他の適切な支援を利用することと救急処置の実施が含まれる。

助産師は、女性のためだけでなく、家族及び地域に対しても健康に関する相談と教育に重要な役割を持っている。この業務は、産前教育、親になる準備を含み、さらに、女性の健康、性と生殖に関する健康、育児におよぶ。

助産師は、家庭、地域（助産所を含む）、病院、診療所、ヘルスユニットと様々な場で実践することができる。

この定義は、2005年7月19日オーストラリア ブリスベンで開催されたICM評議会において採択された。

1972年のICMの「定義」および1999年の修正案は廃止する。

#### 註) ヘルスユニット

発展途上国等における組織化された保健医療提供システムの中で、住民が最初に診断と治療処置を受ける施設のこと。ヘルスポストとも呼ばれる。

〈英文〉

### Definition of the Midwife

A midwife is a person who, having been regularly admitted to a midwifery educational program, duly recognized in the country in which it is located, has successfully completed the prescribed course of studies in midwifery and has acquired the requisite qualifications to be registered and/or legally licensed to practice midwifery.

The midwife is recognized as a responsible and accountable professional who works in partnership with women to give the necessary support, care and advice during pregnancy, labor and the postpartum period, to conduct births on the midwife's own responsibility and to provide care for the newborn and the infant. This care includes preventative measures, the promotion of normal birth, the detection of complications in mother and child, the accessing of medical care or other appropriate assistance and the carrying out of emergency measures.

The midwife has an important task in health counseling and education, not only for the woman, but also within the family and the community. This work should involve antenatal education and preparation for parenthood and may extend to women's health, sexual or reproductive health and child care.

A midwife may practise in any setting including the home, community, hospitals, clinics or health units.

Adopted by the International Confederation of Midwives Council meeting, 19<sup>th</sup> July, 2005, Brisbane, Australia Supersedes the ICM "Definition of the Midwife" 1972 and its amendments of 1990.

### 3) 新体制のICM事務局

同じく昨年のブリスベン大会でICM本部事務局のメンバーが一部変わりました。写真は事務局長から送付してもらったものです。写真左後ろから、Kathy Herschderfer (事務局長)、Jessica Gonzalez (海外通信・文書マネージャー)、Dympna Byrne (作業計画マネージャー; グラスゴー大会の準備にも関わる)、Elizabeth Duff (エディター)、左前が Ludwing Groenefelt (財務管理)、Nester T.Moyo (プログラムマネージャー)、です。尚、本部事務局の連絡先は、これまで同様に下記を参照して下さい。直接ICMジャーナルを購読されたい方は下記にご連絡ください。また、本部を訪問したい方は大歓迎だそうですが、あらかじめアポイントメントをとってからお越しくださいとのことです。



#### 【連絡先】

ICM Headquarters  
 Eisenhowerlaan 138, 2517 KN The Hague,  
 The Netherlands  
 Tel: +31 70 3060520  
 Fax: + 31 70 3555651  
 E-mail: info@internationalmidwives.org  
 URL: www.internationalmidwives.org  
 ICMジャーナル購読：  
 年 間 47.50ユーロ、  
 3年間 127.50ユーロ (年4回)

## 2. 最近のICMジャーナル記事の紹介

### 1) 最新号よりVol 19-No1, March

主な内容：

- ・メンバー間のつながりを持ちましょう（新理事長 Judi Brown）
- ・各地での国際助産師の様子
- ・Marie Goubranリーダーシップ受賞者：この賞は元ICM事務局長（1987—1990年）をされていたMarie Goubranの家族の寄付によって、妊産婦と家族により専門的にかかわりかつ優れたリーダーシップを発揮した助産師に贈られる。2005年にはガーナ全土を駆け巡り妊産婦ケア、家族計画、性感染症・マラリア予防に貢献したガーナ助産師会の*Agatha Amoateng-Boahen*に贈られた。
- ・子ども救済賞（The Save the Children award）：これは、地球的孩子救済組織がサブ・サハラまたはアジア地域の地域レベルでの研修やサービス提供により新生児の健康を改善のために貢献した助産師を支援する賞である。2005年の受賞者は次の3名の助産師である：Carol Millan（フィリピン合同助産師会）、Sister Kiros Kebede（エチオピア看護師助産師会）、Mary Namusisi（ウガンダ私立助産師会）。
- ・国際的文化的多様なコミュニティにわたる倫理的調査共同のためのガイドライン（Holly Powell Kennedy他）
- ・安全な母性に関する3つのワークショップの開催：
  - ①産科的瘻孔を持つ女性に対する助産師の役割（2005年7月オーストラリア、ブリスベンにて）
  - ②東アフリカ地域での産後出血予防に関するワークショップ（2005年10月ザンビア・ルサカにて）
  - ③ミレミアム開発目標に向けた地域に密着した熟練した出産立会い人の公認を強化するワークショップ（2005年インド、ベロール、WHO東南アジア地域とアフガニスタン、パキスタン／UNFPA東南アジア地域／ICMにて支援）
- ・世界のニュース抜粋
- ・WHOレポート2006年：詳細は、[www.who.int/hrh/whr06](http://www.who.int/hrh/whr06)を参照。
- ・骨盤位に関する最新データ：2000年に医学誌ランセットで発表された物議をかもし「すべての骨盤位は帝王切開すべき」と結論づけられた論文から5年経て、それをさらに根拠づける論文が発表された。⇒Glezerman M. Five years to term breech trial: The rise and fall of a randomized controlled trial. *American Journal of Obstetrics and Gynecology* 2006;194: 20-24
- ・会議案内：看護と助産開発のためのWHO共同センター地球ネットワークに共同して行う国際学際的カンファレンス：2006年6月7—9日、スコットランド、グラスゴーにて開催予定。

#### 《連絡先》

Mrs Linda Ferguson, Global Network of WHOCCs Secretariat, School of Nursing, Midwifery and Community Health, Glasgow Caledonian University

Tel: +44 141 41 331 8310

Fax: +44 141 331 8312

E-mail: [gnsccwccc@gcal.ac.uk](mailto:gnsccwccc@gcal.ac.uk)

URL: [www.whooc.gcal.ac.uk/conf\\_2006/](http://www.whooc.gcal.ac.uk/conf_2006/)

（文責 加納尚美）



**別紙申込書**

FAX 送信先 03-3221-0417 日本助産学会

**日本助産学会誌バックナンバー申込書**

お名前		* 連絡先	
-----	--	-------	--

\* 在庫確認と送料のご連絡をしますので必ず連絡先(電話・FAX・メールアドレス)をお知らせください!

送付先	〒 _____
-----	---------

Vol.-No.	希望部数	Vol.-No.	希望部数
1-1		12-1	
1-2	在庫なし	12-2	
2-1		12-3	
2-2		13-1	
3-1		13-2	
3-2		13-3	
4-1		14-1	
4-2		14-2	
5-1		14-3	
5-2		15-1	
6-1		15-2	
6-2		15-3	
7-1	在庫なし	16-1	
7-2		16-2	
8-1		16-3	
8-2	在庫なし	17-1(@2,500)	
9-1		17-2(@2,500)	
9-2		17-3(@2,500)	
10-1		18-1(@2,500)	
10-2	在庫なし	18-2(@2,500)	
11-1		18-3(@2,500)	
11-2		19-1(@2,500)	
		19-2(@2,500)	
		19-3(@2,500)	

申込合計部数	部
--------	---

## 2) ジャーナルからの記事抜粋 (Vol 18-No5, Sep/Oct より抜粋)

## 国際助産師連盟

ICMの中核となる「助産ケアに関する見解と基準」という文章は、2002年4月のウィーンでの会議の際に、それぞれのICM地区から寄せられた意見と情報をもとに、当初はNester Moyoが、書いたものです。以来、この文章は、改訂、更新を受け、今年7月のプリズベンにおける会議で、最終的な合意を得られました。これは、まもなく、ICMのウェブサイト、[www.internationalmidwives.org](http://www.internationalmidwives.org)において、「Core documents (中核となる文書)」として、全文を見る事ができるようになります。

## 「助産ケアに関する見解と基準」

## ◆背景

助産師とは、その国で正式に認められた助産教育プログラムを受けて、助産の指定されたコースを無事終了した上、登録するために、あるいは、助産の実践の法的な資格のために必要な免許を得られた人を指す。助産師は、見解に基づいたケアを提供し、それは、ケアの基準に影響を与えるとICMは考えている。この文書は、その見解の概略を示し、助産ケアの基準を示したものである。

## ◆信条

助産師として、私たちは、以下のことを信じている

1. 子どもを産むことは、深遠な体験であり、女性とその家族、および社会に意義をもたらすものである。
2. 出産は、正常で生理的なプロセスである。
3. 助産師は、妊娠、分娩、産後を通して、女性に寄り添い、ケアを行う最も適切な提供者である。
4. 助産ケアは、女性に対して、自分自身とその家族の健康に関する責任を引き受ける能力をもたらす。
5. 助産ケアは、女性とパートナーシップのもとで行われるものであり、個別性があり、継続性があり、権威的なものではない。
6. 助産ケアは、技と科学を組み合わせたものである。助産ケアは、女性の社会的、情緒的、文化的、精神的、心理的、身体的な体験を理解することに基づき、最も有用な証拠に基礎を置いたものであり、この上なく、包括的なものである。
7. 助産師は、出産における女性とその能力に自信を持ち、信頼し、敬意を払うものである。
8. 女性は、基本的に自分のケアの決定者であり、決定能力を高める情報を求める権利を持っている。

## ◆結果

1. 助産ケアは、女性の生殖に関する権利を促進し、保護し、援助するとともに、民族的や文化的な多様性を尊重する。
2. 助産の実践は、正常な出産において、介入をしないことを促進し、勧めていくものである。
3. 助産の実践は、出産時に、女性の自信を作り上げていく。
4. 助産師は、適切に科学技術を用い、問題が起きた際には、適時、有効な紹介を行う。
5. 助産師は、先見的で柔軟性のあるケアを行う。
6. 助産師は、女性に適切な情報を提供し、ある意味で、参加を促し、決定を促進するように、アドバイスを行う。
7. 助産ケアは、助産師と女性の間築いた信頼と相互の敬意を維持するものである。

8. 助産ケアは、積極的に女性の健康を促進、保護するとともに、赤ちゃんの健康状態を高める。

#### ◆会員への声明の手引き

会員は、この文書を、助産教育の指針として、助産ケアの構成として、助産師の補佐的な指導として、あるいは、ケアの評価として、使うことができます。これは、また、助産師とケアを受ける人との人間関係の手引きにも、使うこともできます。団体に所属する会員は、助産の実践の規則や法規を作成中にあって、これを他の健康の専門家や政府に伝えることができます。これは、2005年7月に、オーストラリアのブリスベンで、ICMが採択したものです。

(文責：山本令子)

## 国際助産協働委員会報告

国際助産協働委員会担当理事 毛利多恵子

### 1 ネパール事業報告

#### (1) 2005年12月ネパールカトマンズ市における「自然で安全な助産」ワークショップ事業開催

2004年1月に日本での研修からスタートしたネパール事業は、研修約1年後のプトワール市での研修評価となり、現地サイドからさらに研修をしてほしいとの要望があり、今回AMDA兵庫と当学会との共催、JICA市民参加協力事業支援を受け、「自然で安全な助産」ワークショップ開催となりました。ネパールの治安上の問題で、プトワール市に行くことができず、カトマンズ市で今回の事業を実施しました。参加者は、以前から支援しているプトワール市にあるシッダルダこどもと女性の病院スタッフ8名とカトマンズ市内、プータン難民地域保健センタースタッフなど合計14名。13時間のワークショップを2度実施し、おもに出産期のケアについての内容で、参加型プログラムを実施しました。参加者からは、2度、E-mailで研修で学んだことを実施してみた感想などを伝えてくれました。

(2) ネパール事業報告書2種を作成しました。理事、日本での研修関係者に配布しました。また詳細報告書については、学会事務所に保存しています。

### 2 国際助産協働セミナー報告

#### (1) 2006年1月28日 国際助産協働セミナー1回目を開催

国際協力に関心のある助産師たちを主な対象とし、助産における国際協力の基礎知識や情報などを共有できる場をつくりたいと思い、2005年度から企画しました。24名の参加者があり、半数以上が助産学会会員外でした。アジアで助産師として協力活動をした方、国境なき医師団に参加された方など新しい出会いがありました。セミナー内容は、「妊娠・出産・育児におけるネパール女性の意思決定」について、医療人類学の松山章子氏にご講演いただき、後半は、当学会で実施したネパール研修生招聘事業の評価について話題提供し、松山さん、参加者の方と「国際協力における評価」についてディスカッションしました。

#### (2) 国際助産協働セミナー2回目のご案内

2006年10月14日、長崎で開催される、第47回日本熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会合同大会のサテライト集会として参加することになりました。現在詳細プログラムを企画中です。次回のニュースレターにはご紹介できると思います。国際保健協力の方々とともに

「助産と国際協力」について意見交換し、新たな仲間と出会いませんか？

### 3 委員会メンバー紹介

2006年度より新たに2人の委員を迎えました。旧メンバーは、嶋澤恭子さん（ラオス経験）、藤原美幸さん（主に南米経験）、毛利（南米経験）でした。新メンバーは、田中幸恵さん（ボリビアでの経験）と森兼真理さん（アジア・アフリカ経験）を迎え5人で活動することとなりました。よろしくお願いいたします。

### 4 2006年3月の東京での学術集会では、ICM募金をありがとうございました。

皆様のご協力により169,099円集まりました。会場内において、袋で募金活動したことに對してご指摘をいただきました。誠に申し訳ありませんでした。配慮にかけましたこと深謝いたします。今後募金活動の方法について改善策を講じたいと思います。

## 第47回熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会のサテライト集会 日本助産学会国際助産協働セミナー II in長崎 助産と国際協力

- ・開催日時：2006年10月14日 土曜日 9：30～16：00（受付9：00より）
- ・開催場所：長崎大学医学部キャンパスポンペ会館および熱帯医学研究所集会室（未定）
- ・参加費：2,000円（学生1,000円）

- ・プログラム案：次号ニュースレターでさらに詳細プログラムをお知らせします。

講演 世界のSafe motherhoodの動向と日本の課題

国井 修氏 ユニセフ保健局シニアアドバイザー

講演 Safe motherhoodの評価方法 松山 彰子氏 長崎大学助教授

シンポジウム「出産ケアと国際協力」

「ボリビアの経験 出産ケアの質と変化」

国際協力経験のある助産師

「マラウイの経験 出産ケア」

国際協力経験のある助産師

「ザイール・中央アフリカ共和国の経験 出産ケア」

国際協力経験のある助産師

「助産師に期待すること」

外務省

主催 日本助産学会 国際助産協働委員会

問い合わせ先 世話人 大石 和代（長崎大学医学部保健学科）

k-oishi@nagasaki-u.ac.jp

毛利多恵子

mohri@db3.so-net.ne.jp



## 第21回日本助産学会学術集会プログラム（予告）

Midwives Must be Autonomous: Connections to the Community

求められる助産師の自律—地域との連携のもとで—

会期：2007年3月10日（土）・11日（日）

会場：B-Con Plaza（ビーコンプラザ）大分県別府市山の手町12-1

会長：宮崎 文子（大分県立看護科学大学母性看護学・助産学教授）

### 【タイムスケジュール】

#### 第1日目 3月10日（土）

- 9：00～ 受付開始
- 9：00～10：00 評議委員会
- 10：15～10：30 会場オリエンテーション
- 10：30～10：35 開会式（会長挨拶）
- 10：35～11：15 会長講演「求められる助産師の自律—地域との連携のもとで—」  
演者：宮崎 文子（大分県立看護科学大学母性看護学・助産学教授）
- 11：20～12：20 基調講演「プロフェッションとプロフェッションの教育」  
演者：山田 礼子  
（同志社大学社会学部教育文化学科教授兼教育開発センター副所長）
- 12：30～13：20 総会
- 13：30～14：20 教育講演Ⅰ「思春期の心身医学からみた子育て」  
演者：森 崇（北九州津屋崎病院副院長）
- 14：30～15：20 教育講演Ⅱ「サルのお産と母と子のきずな」  
演者：松井 猛（日本霊長類学会会員）
- 15：30～17：30 シンポジウム「地域と助産師の連携」  
演者：助産院経営の立場  
矢島 床子（矢島助産院長）  
医療機関内のオープンシステムの立場  
上田 たかこ  
（医療法人愛和会愛和病院看護部長兼サマリア・ハウスうえだ院長）  
母乳育児の立場  
平田 喜代美（平田母乳育児コンサルタント院長）  
性教育活動の立場  
安倍 本子（大分市あべ助産所長）
- 18：00～19：30 懇親会

第2日目 3月11日(日)

- 8:30～ 受付開始
- 9:20～ 9:30 オリエンテーション
- 9:30～10:30 特別講演「アフリカの助産師の自律」  
演者：徳永 瑞子（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科看護学専攻教授）
- 10:30～12:00 ワークショップⅠ「助産科誕生—その背景と実際そして展望—」  
演者：三浦 徹（医療法人薫風会佐野病院産婦人科医師リーダー）  
石村 朱美（医療法人薫風会佐野病院助産科助産師）
- 12:10～12:55 ランチョンセミナー1「より美しく・より健康に—ピルの考え方—」  
演者：種部 恭子（女性クリニック We（ウィ） 富山院長）  
ランチョンセミナー2「思春期の性感染症とその予防について  
—今、私たちにできること—」  
演者：赤枝 恒雄（赤枝六本木診療所院長）
- 13:00～14:00 ワークショップⅡ「医療機関における助産ケアの質を考える」  
演者：齋藤 益子（東邦大学医学部看護学科教授）
- 14:00～15:30 ワークショップⅢ「日本の助産師と国際協力」  
演者：大石 和代（長崎大学医学部保健学科教授）  
入山 茂美（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科看護学専攻講師）
  
- 9:30～15:30 一般演題発表（口演・示説）
- 15:30～ 閉会式

【日程概要】

	9:00	10:00	10:30	11:20	12:30	13:30	14:30	15:30	17:30	18:00
第1日 3/10 (土)	評議委員会	オリエンテーション	開会 会長挨拶	会長 講演	基調講演	総会	教育講演 Ⅰ	教育講演 Ⅱ	シンポジウム	懇親会

	9:20	9:30	10:30	12:10	13:00	14:00	15:30
第1日 3/11 (日)	オリエンテーション	特別講演	ワークショップ Ⅰ	ランチョン セミナー1	ワーク ショップ Ⅱ	ワーク ショップ Ⅲ	閉会式
		一般講演(口演・示説)		ランチョン セミナー2	一般講演(口演・示説)		

## 【学術集会および懇親会参加費事前振込みのご案内】

## 1. 参加費について

	事前登録（1月31日迄）	当日登録	備 考
会 員	8,000円	10,000円	
非会員	9,000円	12,000円	
学 生	4,000円	5,000円	但し、大学院生を除く

\*1月31日までに納入の方には学会集録を事前にご送付いたします。

## 2. 懇親会について

## 1) 懇親会開催のご案内

- 日 時：2007年3月10日（土）18：00～19：30
- 会 場：B-Con Plaza（ビーコンプラザ）2F レセプションホール
- 会 費：5,000円

注) 事前申し込み者のみのご参加となります。ご了承ください。

## 3. 振込先

## 1) 銀行振込み

大分銀行 本店営業部（普）口座番号 5539868  
 口座名義 株式会社大分航空トラベル 代表取締役社長 平松 泰行

## 2) 郵便振込み

口座記号番号 01750-7-132917  
 加入者名 第21回日本助産学会学術集会

2月1日以降は、口座は閉鎖致します。よって振込みはできません。  
 なお、一度払い込まれた参加費は返却致しませんので、くれぐれもご了承ください。

## 4. 参加申し込み方法

第21回学術集会参加事前振込みにあたっては、郵便振込みをご利用の場合、学術集会ご案内に同封の振込み用紙をご利用ください。なお、振込用紙は、参加者1名につき1枚ご使用ください。

## 〈連絡先〉

第21回 日本助産学会学術集会事務局  
 〒870-1201 大分県大分市大字廻栖野2944-9  
 TEL 097-586-4404 FAX 097-586-4381  
 大分県立看護科学大学 母性看護学・助産学  
 (担当：安倍 本子、関屋 伸子)

### \*\*\*募金のお願い\*\*\*

本学会では下記の募金を受付けています。会員の皆様のご協力をお待ちしています。

#### \*ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ（国際基金）の募金について

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。一口2,000円です。

振替口座番号：00190-8-710931

加入者名：日本助産学会国際基金

#### \*セーフマザーフード基金の募金について

世界で妊婦死亡率および罹病率が最も高い地域における助産の知識の発展を支援するための募金です。一口1,000円です。

振替口座番号：00240-8-6818

加入者名：日本助産学会ICMセーフマザーフード基金

前回募金をいただいた多賀琳子様のお名前が違っていました。ここに訂正しお詫び申し上げます。

今回も募金にご協力いただき感謝申し上げます。第20回学術集会会場の分も含めてご協力いただきました方々（敬称略）・団体のお名前を掲載させていただきます。ありがとうございました。

青柳由佳、浅生慶子、安達久美子、天笠典子、有森直子、栗野雅代、石川真由美、伊藤幸子、伊藤ひとみ、入江妙子、浦場美菜子、江角二三子、江藤宏美、恵美須文枝、大石和代、大石時子、大瀬富士子、緒方妙子、岡永真由美、小木曾みよ子、沖野幸、小田切房子、葛西圭子、梶間敦子、加城貴美、片桐麻州美、加藤亜希子、加藤尚美、金森京子、加納尚美、亀田幸枝、茅島江子、川添香、菊池千代子、杵淵恵美子、木村麗子、久我原純子、久保幸代、久保田君枝、河野小祝子、古賀由佳子、小塩賀子、小島淑子、小林益江、小林康江、菰田純子、斉藤ひさ子、齋藤美恵、坂井明美、阪本喜代子、佐々木舞、佐々木裕子、佐藤喜美子、佐藤節子、沢本万紀子、篠田恵見、嶋澤恭子、島田絵美、嶋田紀膺子、島田啓子、島宮典子、末原紀美代、菅田倫子、鈴井江三子鈴木恵子、鈴田絹子、園生陽子、高木貴美子、高田昌代、高橋弘子、高室典子、滝川節子竹内亜祐子、竹内美恵子、田中幸恵、谷川裕子、谷口通英、田淵紀子、辻順子、戸津有美子、外丸雅子、富安俊子、中西フキ子、中本朋子、中山愛友、永山真理子、西一代、野田みや子、橋本佳美、服部佳代子、林はるみ、原田みさ子、針谷友佳、日隈ふみ子、平澤美恵子、蛭田由美、廣田順子、比氣美香、福井トシ子、藤原美幸、藤原ゆかり、細見和加、堀内成子、堀川彰子、正岡経子、増田美恵子、松井、松岡知子、丸山さとみ、三井政子、宮崎ひでみ、宮崎文子、宮中文子、宮中由紀、宮本雅子、三輪寿江、村上明美、村上真理、村上睦子、毛利多恵子、森谷幸子、安田孝子、柳橋千代子、山名香奈美、四垂真弓、米田ますみ、渡辺聡美、渡邊典子、渡部初子、

「国際助産師の日」第15回愛知県実行委員会

引き続き 皆様の暖かいご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 事務局からのお知らせ

### 学会誌バックナンバー無料化のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバーの第1巻から第16巻（1巻2号・7巻1号・8巻2号・10巻2号は在庫なし）を、ご希望の方には無料（送料分申込者負担）で送付できるようになりました。是非ご利用ください！

申込み方法は、別紙申込書に明記の上FAXで送信していただくか、日本助産学会ホームページ（<http://square.umin.ac.jp/jam/>）から申込書をダウンロードして書き込みの上E-mail（jam1987@ninus.ocn.ne.jp）に添付してお申し込みください。

\*在庫に限りがありますので、ご希望に添えない場合がありますことをあらかじめご了承ください。

\*第17巻から19巻に関しては、1部あたり2,500円（送料分申込者負担）です。

こちらのお申し込みも受け付けています。

### 「国際助産師の日」のリーフレットに関するご意見募集のお知らせ

今回、日本助産学会で作成いたしました「国際助産師の日」のリーフレットを同封しました。会員の皆様、お知り合いの方へのよりよいご活用・ピーアールをよろしくお願い申し上げます。日本助産学会ホームページ（<http://square.umin.ac.jp/jam/>）に掲示板をもうけましたので、「国際助産師の日」のリーフレットに関して、今後の参考のため皆様のご意見をお寄せください。ご協力よろしく願います。

\*厚生労働省からのリーフレット2種類も同封しましたのでご活用ください。

・「すこやか おやこ な、くに。」

・「妊産婦さんへの思いやりをマークにしました」

### 平成18年度会費（10,000円）納入について

・今年度（平成18年度）会費未納の方は、早急にお振込をお願いします。

振込先は下記になります。（郵便局備え付けの振込用紙をご利用ください）

振替口座番号：00100-5-83244

加入者名：日本助産学会

・郵便振込から口座引落に変更される方は、書類をお送りいたしますので事務局までお知らせ下さい。

・口座引き落としご利用の方で、「取引なしエラー・資金不足エラーのため会費が未納です」のお知らせを受けた方で振込がまだの場合、上記振込先に早急にお振込をお願いします。

### 口座引き落としをご利用の皆様にご連絡します！

・次年度（平成19年度）の引き落としは、2月から3月23日に変更になります。

・次年度（平成19年度）から退会を希望する場合は、平成19年2月20日までに必ず事務局にご連絡下さい。

それ以降は口座引き落としの解約手続きが間に合いませんのでご注意ください！

平成19年2月20日までに退会の連絡が無く、引き落とされた会費につきましては、会則第7条（三）にありますようにお返しできませんので、次年度退会ご希望の場合は早めのご連絡をお願いいたします。

・会費引き落とし口座のご変更（特に姓変更された方（名義人名変更）・口座番号変更・取引金融機関変更等）がありましたら、登録引落データ削除の必要がありますので、必ず事務局に平成19年2月20日までにご連絡下さい。（ご連絡がないと変更前の口座で引き落とされて取引なしエラーになります。手数料（助産学会負担）だけが引かれてしまいますので必ずご連絡下さい。）

### 変更届について

住所・姓・勤務先および送付先等、変更の場合は必ず事務局までお早めにお知らせください。変更後の連絡がありませんと、当学会からの緒情報をお届けすることができません。

年2回発行の学会誌と年3回発行のニュースレターが届かない場合は、会費納入・変更届などを忘れている可能性がありますのですぐ下記事務局へご連絡ください。

### 《連絡先》

日本助産学会事務局

〒102-0071

東京都千代田区富士見1-8-21

Tel & Fax：03-3221-0417

E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp

円滑な事業推進にご協力下さいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今月号より、学会誌のサイズ変更に伴い、ニュースレターもA4サイズに変更となりました。今後ともよろしくお願い致します。